

高齢者の電化製品への対応

—女子学生との比較において—

杉山喜美恵

I. はじめに

「科学技術の恩恵は、高齢者にも、否、むしろ、高齢者に施されるべき—これがこれからの高度情報化社会のあるべき姿だ」という考えに基づき、我々は、高齢者の日常生活の実態を明らかにした上で、高齢者が日常に氾濫する情報にどのように対応しているかを1. 食品・衣服に関する表示の認識度、2. クレジットカードの利用、3. 社会サービスの現状と未来、4. 電化製品の利用という領域について調査を行い、その問題点をまとめた。

その結果、高齢者の情報への対応については、性、年齢とならんで、「電化製品の取り扱い説明書」を読むかどうかの一つの鍵となることが我々の調査から明らかにされた。^{1) 2)}

本稿では、その結果を受け、高齢者その他の世代を比較することによって、高齢者の特徴をより明確にできるのではないかと、また、それが、これからの調査研究の一つの足がかりになるのではないかと考えている。そこで、今回は、前述の第4の分野—電化製品の利用における比較を行った。電化製品の利用に関しては、性差が大きい³⁾ので、より結果を明確にするために、性を女性に限定し、その上で、高齢者と学生との比較を行った。

II. 方法および内容

調査対象は、60歳以上の女性399名、および東海女子短期大学英文学科学生352名。

60歳以上の女性については、我々が1991年に行ったアンケート調査の対象者567名より女性を抽出した。

調査内容は以下のとおりである。詳細な質問項目については、末尾に掲載した。

1. よく使用する電化製品。
2. 取り扱い説明書の使用と問題点。
3. 電子レンジの使用と問題点。

III. 結果と考察

1. よく使用する電化製品

代表的な家電製品34項目の中から、日常生活の中で、自分が「よく使用する」と思う電化製品を選んでもらった（複数回答）。その結果をまとめたものが表1である。

それによると、高齢者のよく使用する電化製品は、割合の高いものからあげると、テレビ(91.2%)、冷蔵庫(82.5%)、洗濯機(76.9%)、炊飯器(71.4%)、扇風機(69.2%)、こたつ(66.4%)、掃除機(63.4%)などで、家事に使われるものが多く、次いで冷暖房器具が多い。一方、学生のよく使用する電化製品は、テレビ(93.5%)、CDプレーヤー(79.5%)、ドライヤー(76.4%)、冷蔵庫(75.9%)、ビデオデッ

キ（71.3%）などで、おもに娯楽関係のものが多く、高齢者と違って、家事に関連する電化製品がほとんどあげられていないことがわかる。

次に、高齢者と学生を比較してみる。図1は、個々の電化製品の割合を棒グラフで表したものである。それによると、非常に差が大きい電化製品と、差がほとんどない電化製品とがあることがわかる。

あまり差がない電化製品には、テレビ、冷蔵庫、アイロン、トースター、食器洗い機、加湿機、空気清浄機、フードプロセッサなどがあげられるが、これらは、さらに、「高齢者も学生

もよく使用する」電化製品と、「高齢者も学生もあまり使用しない」電化製品とにわけられる。前者には、テレビ（高齢者91.2%、学生93.5%）冷蔵庫（高齢者82.5%、学生75.9%）などが含まれるが、これらは、一般の普及率⁴⁾も高い。

後者には、加湿機（高齢者 3.0%、学生 3.1%）、空気清浄機（高齢者3.3%、学生4.3%）、フードプロセッサ（高齢者2.0%、学生3.7%）が含まれるが、一般の普及率もまだ低いものが多い。

一方、差が大きい電化製品は「学生はよく使用するが、高齢者はあまり使用しない」電化製品と、その反対に「高齢者はよく使用するが、

表1 よく使う電化製品（複数回答）

製品名 種 別	テレビ	ビデオ	ラジカセ	コードレスホン	C D	ビデオカメラ	ワー プロ	パソコン	電子レンジ	食器乾燥機	冷蔵庫	食器洗い機	炊飯器	トースター	オーブン	トースター オーブン
高齢者 n=399	364 91.2	30 7.5	67 16.8	24 6.0	3 0.8	1 0.3	0 0	2 0.5	154 38.6	61 15.3	329 82.5	14 3.5	285 71.4	122 30.6	48 12.0	93 23.3
学生 n=352	329 93.5	251 71.3	228 64.8	121 34.4	280 79.5	11 3.1	168 47.7	20 5.7	205 58.2	53 15.1	267 75.9	20 5.7	159 45.2	110 31.3	71 20.2	137 38.9

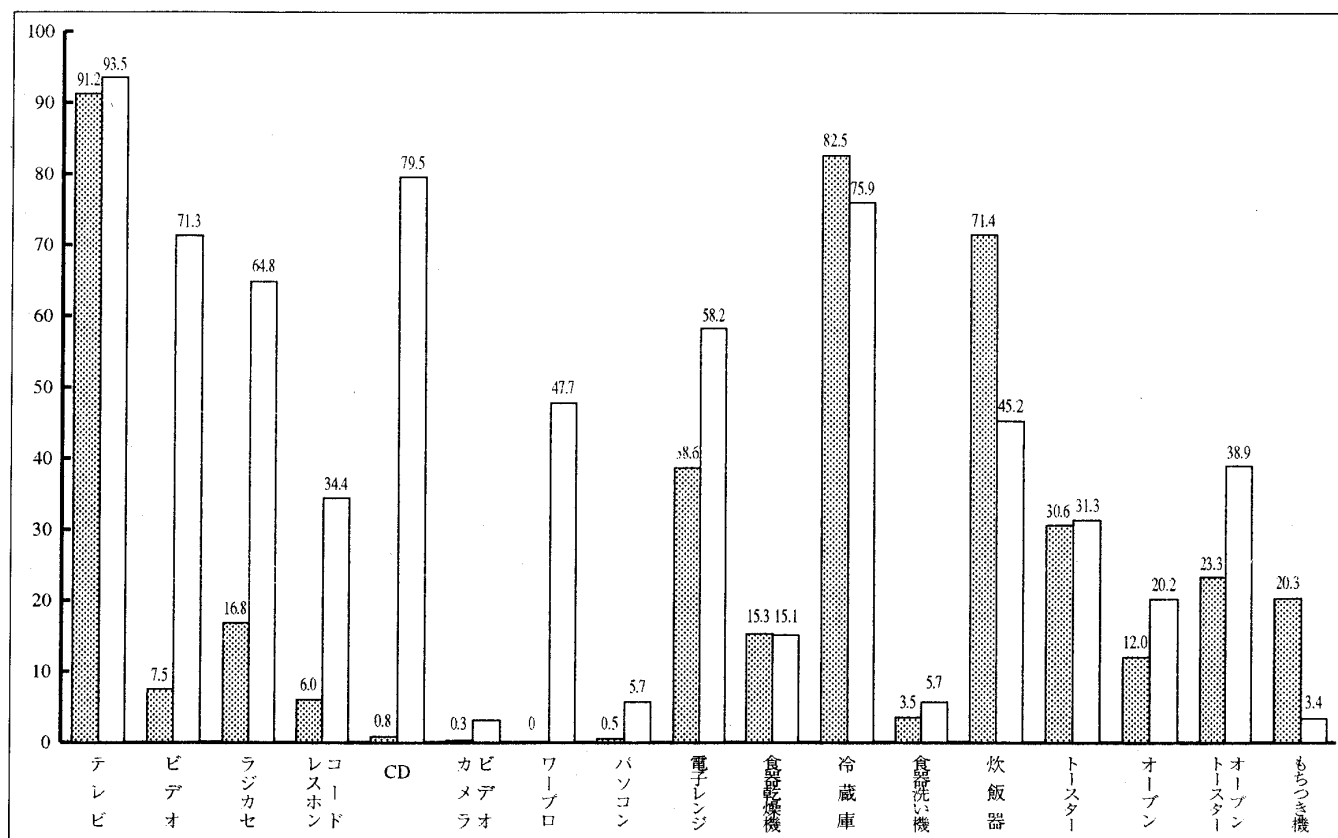


図1 よく使う電化

学生はあまり使用しない」電化製品とに大別される。前者には、ビデオデッキ（高齢者7.5%、学生71.3%）やラジカセ（高齢者16.8%、学生64.8%）、CDプレーヤー（高齢者0.8%、学生79.5%）など娯楽性の高いものが多い。ワープロについては、調査対象の学生が、ポータブルワープロを一人一台所有しており、また、学校の授業でワープロを使用しているという状況も割合を高めた一因であると考えられる。

後者には、電気あんか（高齢者32.3%、学生4.3%）、扇風機（高齢者69.2%、学生40.6%）、こたつ（高齢者66.4%、学生39.2%）、電気毛

布（高齢者51.4%、学生17.6%）など、冷暖房器具が多く含まれている。

もちつき機、ジューサー・ミキサーをよく使用すると答えている高齢者が多いことも興味深い。

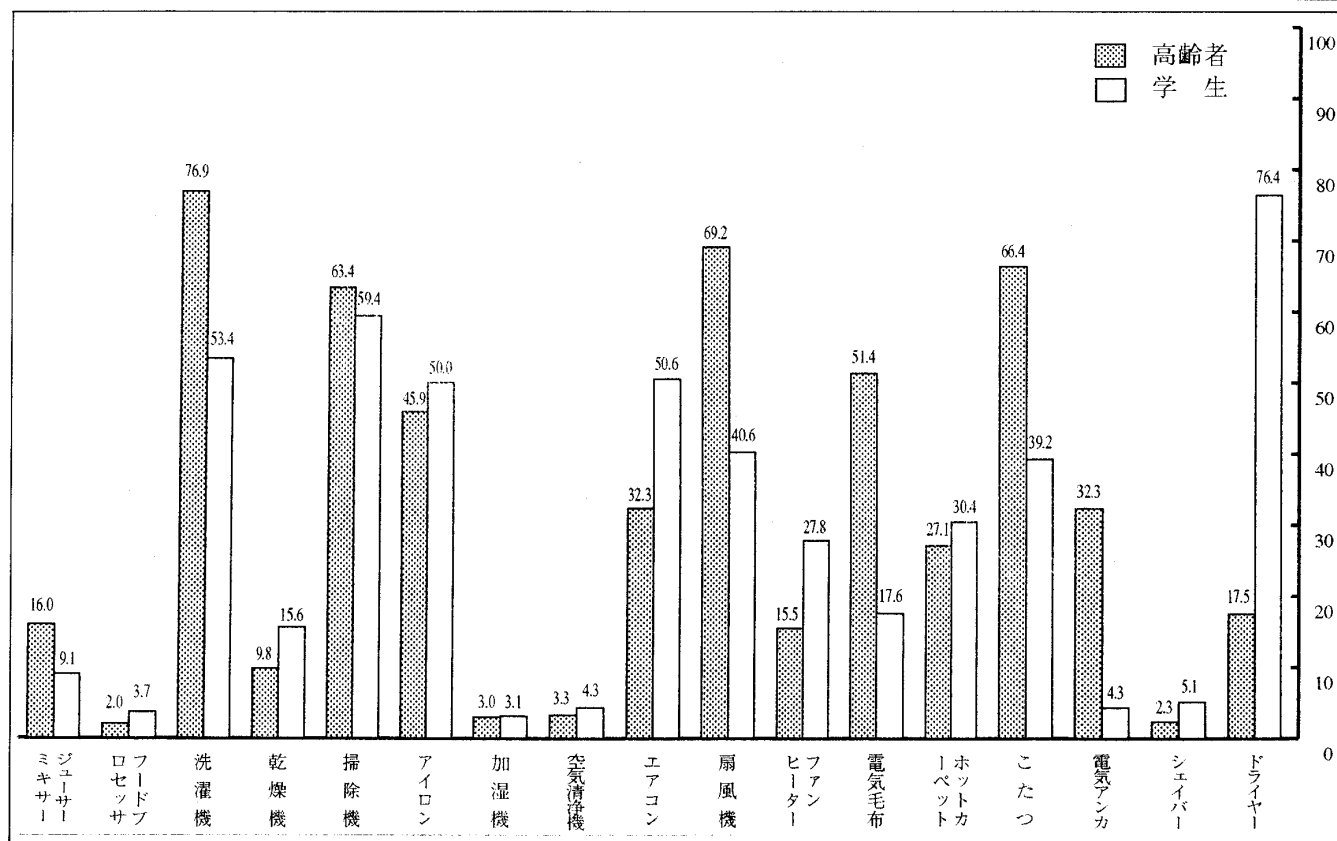
以上のことをまとめたのが表2である。

トースターは、高齢者30.6%、学生31.3%と僅差であるが、機能の類似したオーブントースターと比べると、高齢者23.3%、学生38.9%で高齢者はトースターを、学生はオーブントースターの方をよく使用していることがわかる。

冷暖房器具では、高齢者は、扇風機（高齢者

上段：人数（人）／下段：割合（%）

もちつき機	ミキサー・ジューサー	プロセッサ	洗濯機	乾燥機	掃除機	アイロン	加湿機	空気清浄機	エアコン	扇風機	ファンヒーター	電気毛布	カーペット	こたつ	電気あんか	シェイバー	ドライヤー
81	64	8	307	39	253	183	12	13	129	276	62	205	108	265	129	9	70
20.3	16.0	2.0	76.9	9.8	63.4	45.9	3.0	3.3	32.3	69.2	15.5	51.4	27.1	66.4	32.3	2.3	17.5
12	32	13	188	55	209	176	11	15	178	143	93	62	107	138	15	18	269
3.4	9.1	3.7	53.4	15.6	59.4	50.0	3.1	4.3	50.6	40.6	27.8	17.6	30.4	39.2	4.3	5.1	76.4



製品（割合の比較）

— 92 —

い」で、説明書を読む者と読まない者の差が大きく、内容がわからないから読まないという高齢者の姿勢の一端がうかがわれる。また、説明書を読む者は、「問題なし」とする者が、読まない者やどちらでもないと答えた者に比べて多い。

一方、学生においては、各項目で、説明書を読む者と読まない者の間に、あまり大きな差はみられない。読まない者で「字が小さい」をあげた者が、若干、多いのが興味深い。字が小さ

いから説明書を読まないのであろうか。

高齢者、学生の両者とも、説明書を読む者は「問題なし」をあげている者が多い。しかし、外来語や字のサイズをあげている者は、高齢者がかなり高率である。

3. 電子レンジの使用と問題点

電子レンジの使用についての結果が表7であるが、高齢者において、電子レンジを使用するかという質問に、「はい」と答えた者は37.4%

表5 説明書×問題点 (高齢者)

上段：人数（人）
下段：割合（％）

問題点 説明書	ら内容 がわか い	外来語 多い	事柄 多い	字が 小さい	問題 なし	そ の 他
読む n=141	24 17.0	51 36.2	34 24.1	46 32.6	50 35.5	1 0.7
読まない n=126	72 57.1	48 38.1	43 34.1	39 31.0	13 10.3	2 1.6
どちらでもない n=116	59 50.9	36 31.0	40 34.5	36 31.0	15 12.9	2 1.7
合 計 n=383	155 40.5	135 35.2	117 30.5	121 31.6	78 20.4	5 1.3

表6 説明書×問題点 (学生)

上段：人数（人）
下段：割合（％）

問題点 説明書	ら内容 がわか い	外来語 多い	事柄 多い	字が 小さい	問題 なし	そ の 他
読む n=141	81 38.9	22 10.6	71 34.1	12 5.8	30 28.8	8 3.8
読まない n=126	21 42.0	6 12.0	16 32.0	7 14.0	11 22.0	6 12.0
どちらでもない n=116	40 42.6	8 8.5	38 40.4	5 5.3	26 27.7	2 2.1
合 計 n=383	142 40.3	136 10.2	125 35.5	124 6.8	97 27.6	16 4.5

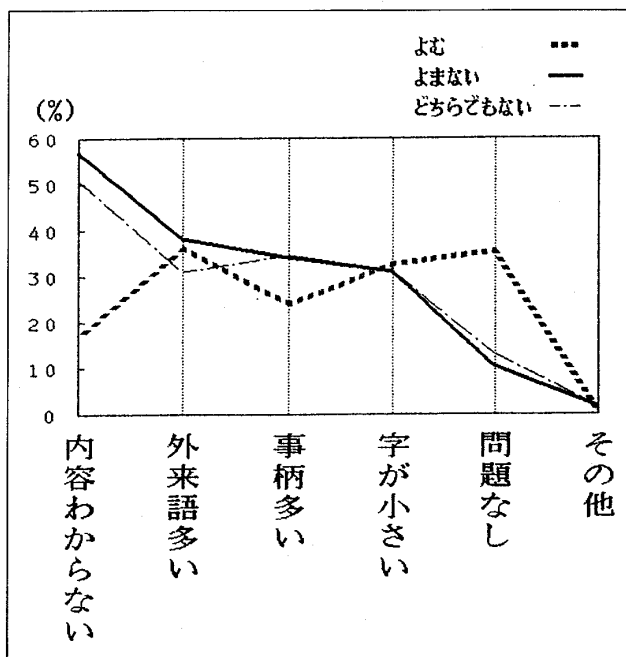


図2 説明書×問題点 (高齢者)

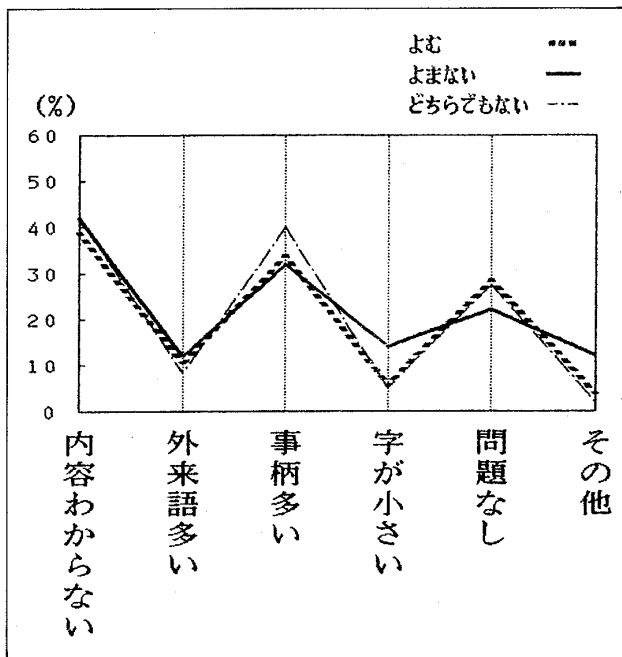


図3 説明書×問題点 (学生)

で、「いいえ」の46.8%を下回っており、使用する者よりも使用しない者の方が多い。一方、学生においては、「はい」と答えた者が63.1%で、「いいえ」の20.5%の約3倍である。高齢者と学生を比べても、学生の方が電子レンジを使うと答えた者が多い。したがって、高齢者は、電子レンジをあまり活用していないということがいえる。

次に、電子レンジの問題点についてみる(表8)。問題点は、字が小さい、外来語が多いなどの表示に関する項目、電子レンジについているボタンの数やサイズに関する項目、使用方法や機能についての項目、価格、電子レンジに対する感情的な項目を取り上げた。

また、電子レンジに対して、肯定的に受け止めているか(「非常に便利」)、否定的に受け止

表7 電子レンジをよく使いますか

回答 種別	はい	いいえ	どちらでも	計
高齢者 n=385	144 37.4	180 46.8	61 15.8	385 100.0
学 生 n=352	222 63.1	72 20.5	58 16.5	352 100.0

表8 電子レンジの問題点(複数回答)

問題点 種別	字が小さい	多ボタン い	小ボタン い	多外来語 い	機能が多い	価格が高い	コワイ	必要なし	使い方が わからない	非常に便利	使わない	その他
高齢者 n=399	40 10.4	56 14.5	18 4.5	43 11.2	62 16.1	26 6.8	31 8.1	47 12.2	62 16.1	129 33.5	120 31.2	10 2.6
学 生 n=352	8 2.3	12 3.4	2 0.6	5 1.4	46 13.1	78 22.2	4 1.1	5 1.4	44 12.5	246 69.9	12 3.4	14 4.0

表9 電子レンジの使用×問題点(高齢者)

上段:人数(人)
下段:割合(%)

問題点 電子レンジ	字が小さい	多ボタン い	小ボタン い	多外来語 い	機能が多い	価格が高い	コワイ	必要なし	使い方が わからない	非常に便利	使わない	その他
よく使う n=144	13 9.0	16 11.1	7 4.9	16 11.1	21 14.6	11 7.6	4 2.8	0 0	8 5.6	98 68.1	5 3.5	4 2.8
使わない n=180	19 10.6	28 15.6	9 5.0	20 11.1	25 13.9	8 4.4	21 11.7	40 22.2	37 20.6	9 5.0	102 56.7	5 2.8
どちらでもない n=61	7 11.5	12 19.7	2 3.3	7 11.5	16 26.2	7 11.5	6 9.8	6 9.8	16 26.2	20 32.8	12 19.7	1 1.6
合 計 n=385	39 10.1	56 14.5	18 4.7	43 11.2	62 16.1	26 6.8	31 8.1	46 11.9	61 15.8	127 33.0	119 30.9	10 2.6

表10 電子レンジの使用×問題点(学生)

上段:人数(人)
下段:割合(%)

問題点 電子レンジ	字が小さい	多ボタン い	小ボタン い	多外来語 い	機能が多い	価格が高い	コワイ	必要なし	使い方が わからない	非常に便利	使わない	その他
よく使う n=222	4 1.8	10 4.5	2 0.9	4 1.8	33 14.9	44 19.8	4 1.8	2 0.9	29 13.1	176 79.3	1 0.5	8 3.6
使わない n=72	1 1.4	2 2.8	0 0	1 1.4	7 9.7	20 27.8	0 0	3 4.2	8 11.1	31 43.1	111 15.3	3 4.2
どちらでもない n=58	3 5.2	0 0	0 0	0 0	6 10.3	14 24.1	0 0	0 0	7 12.1	39 67.2	0 0	3 5.2
合 計 n=352	8 2.3	12 3.4	2 0.6	5 1.4	46 13.1	78 22.2	4 1.1	5 1.4	44 12.5	246 69.9	112 3.4	14 4.0

めているか（「使わない」、「必要ない」）も取り上げた。回答は、複数回答である。

高齢者では、「非常に便利」と答えた者が33.5%で一番多いが、「使わない」と答えた者も31.2%と同じくらいいる。次いで、「使い方がわからない」、「機能が多い」が16%前後で、「ボタンが多い」、「必要なし」「外来語が多い」と続くが、あまり大きな差はみられない。

学生も「非常に便利」と答えた者が一番多く（69.9%）、その割合も、高齢者の約2倍である。次いで、「価格が高い」が続く、学生にとっては、電子レンジは高価格の電化製品であると認

識されていることがわかる。次に、「使い方がわからない」、「機能が多い」と答えた者が多いのは、高齢者と同じであり、両者とも機能の多さや使用方法については問題に思っている。しかし、字のサイズや外来語などの表示、ボタンの数や大きさに関して問題視している学生は少なく、電子レンジをコワイと感じている者も学生には少ない。

また、「必要なし」、「使わない」という否定派も、学生は少数である。

次に、電子レンジの使用とその問題点をクロスさせ（表9・表10）、電子レンジをよく使う

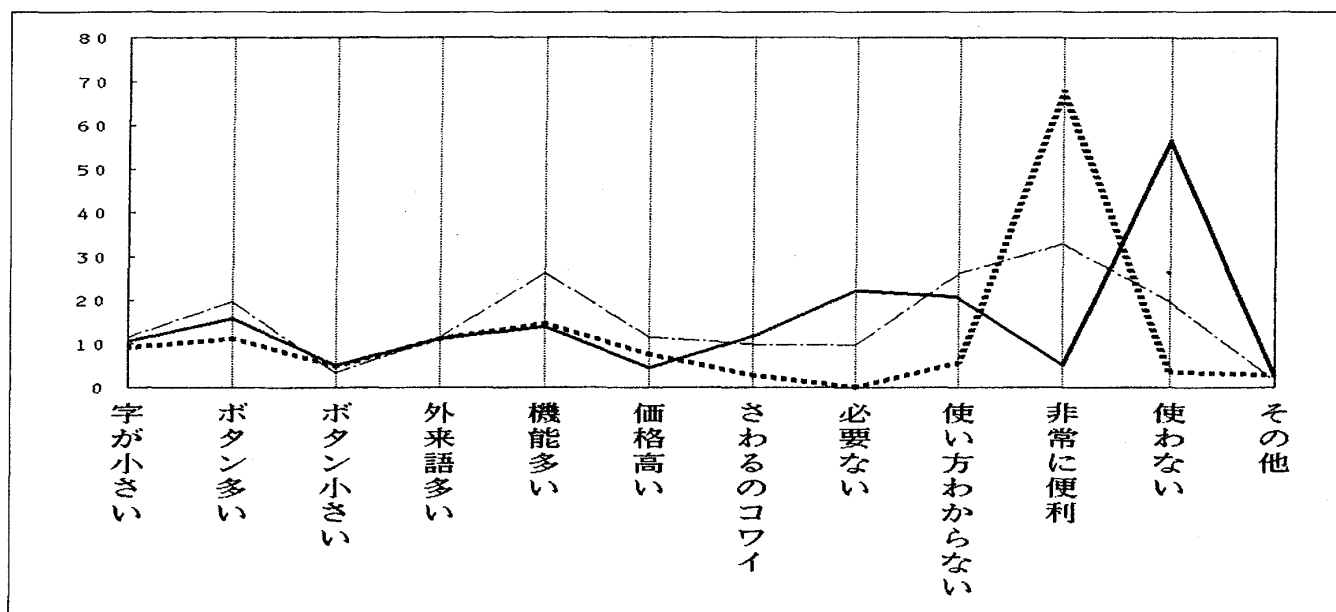


図4 電子レンジの使用×問題点（高齢者）

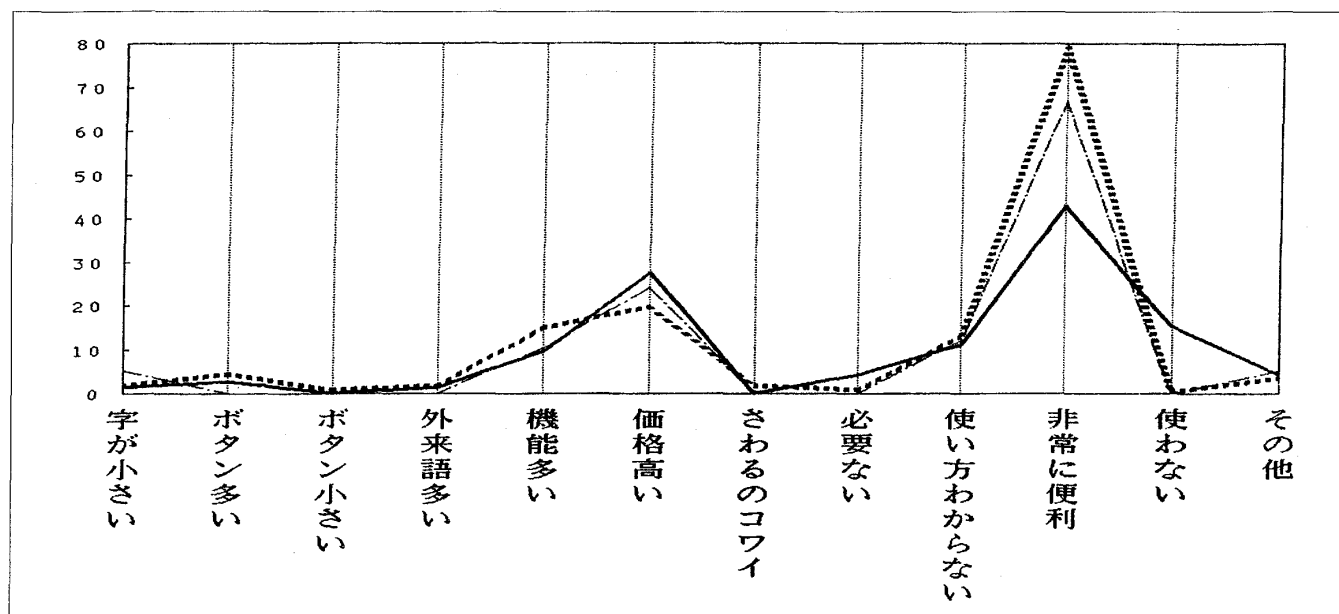


図5 電子レンジの使用×問題点（学生）

者と、使わない者における問題点の認識の違いを調べてみた。その結果をグラフによって表したものが図4・図5である。

高齢者においては、「非常に便利」とする者が、電子レンジをよく使用する者で多く、「必要ない」とする者が使わない者で多い。表示に関する問題点の中では、「ボタンが多い」で、若干の差は見られるものの、「字が小さい」、「ボタンが小さい」、「外来語が多い」では、3者の間に大きな差はみられない。

電子レンジをよく使用する者は、「さわるのがコワク」ないし、「使い方がわからなく」もなく、「必要ない」とも思っていない、電子レンジに対して、肯定的な姿勢がうかがわれる。

学生においても、同様、「非常に便利」と答えた者が、よく使用する者で多い。また、「価格が高い」とする者が、使用しない者で高いことから、学生の使用しない理由の一つは、機能や使用方法に関する問題よりも、むしろ価格的なことがらが大きいといえる。

しかし、全体的にみると、高齢者に比べて、使用する者、使用しない者、どちらでもない者が、ほぼ同じようなカーブを描いていることから、電子レンジの問題点については、電子レンジを使用する者と使用しない者、どちらでもない者と答えた者の間に大きな認識の違いはないと考えられる。

IV. まとめ

高齢者（女性）が日常生活の中で、電化製品にどのように対応しているか、どんな問題をかかえているかを、

1. どんな電化製品をよく使用しているか。
 2. その使用にあたっては、取り扱い説明書を使用しているか、また、その問題点としてどんな項目があげられるか。
 3. 代表的な電化製品を一つ取り上げて、その使用にあたっては、どんな問題点があるか。
- という3つの項目について学生と比較して、現状と問題点についてまとめた。

電化製品の選択については、普及率の伸びが大きい⁷⁾、レトルト食品や冷凍食品の市場への台頭に伴い、使用頻度が高まってきた、機器自体の進歩もめざましいなどの点から、電子レンジをとりあげた。

- (1) 高齢者がよく使用する電化製品は、家事に使用されるものと、冷暖房器具が多く含まれている。一方、学生がよく使用する電化製品は娯楽関係の電化製品が多く含まれている。
 - (2) 高齢者、学生ともによく使用している電化製品としては、テレビ、冷蔵庫があげられる。
 - (3) 高齢者、学生ともあまり使用されていない電化製品としては、加湿機、空気清浄機、フードプロセッサなどがあげられる。
 - (4) 高齢者が学生より、よく使用している電化製品は、電気あんか、こたつ、電気毛布などの暖房器具が多くあげられる。
 - (5) 高齢者の使用が、学生を大きく下回っている電化製品としては、ワープロ、CDプレーヤー、ビデオデッキ、ビデオカメラ、パソコンなどがあげられるが、これらの機器を使用しない理由—生活に必要なのか、あるいは操作が難しくて使用できないのか、などを解明していくことが次の課題としてあげられる。これが、ひいては、科学技術の恩恵を高齢者がよりよく享受できる社会づくりにつながっていくのではないだろうか。
 - (6) 機能の類似した電化製品では、高齢者と学生の間に使用する機器に違いがみられた。
 - (7) 電化製品の取り扱い説明書を読む者は、学生の方が多く、高齢者は3割強しかいない。
 - (8) 取り扱い説明書の問題点としては、高齢者、学生に共通してあげられたのは、内容がよくわからないことと、書いてある事柄が多すぎることであった。
- 一方、字が小さいとか、外来語が多すぎることをあげる者は、高齢者で多かった。
- (9) 高齢者においては、取り扱い説明書を読まない者に、問題点として内容がわからないことをあげた者が、読む者に比べてかなり多かった。
 - (10) 「取り扱い説明書を読む・読まない」が、

高齢者の情報への対応の一つの鍵をにぎっていることは、前に述べたが、電化製品の取り扱い説明書については、内容をわかりやすく、事柄を少なく簡潔にすること、さらに外来語の使用や字のサイズに留意することが望まれる。

(11)電子レンジをよく使用する高齢者は、使用しない者を下回っており、さらに、学生と比較した場合、よく使用すると答えた者は、学生の約半分であった。したがって、電子レンジに関しては、まだあまり活用されていないといえる。

(12)電子レンジの問題点としては、学生と比べて価格の点を除いた、すべての項目で、高齢者の方が高い割合を示していた。特に、字やボタンのサイズ、外来語など表示の点については、学生との差が大きかった。

従って、電子レンジについては、単機能で、わかりやすい表示のものが望まれている。

V. おわりに

加齢につれて、食事を作ることは体力的にも大変になってくる。また、コンロなど火の使用についても不安が出てくる。その際に、電子レンジは、高齢者にとって、よき援助者になりうるのではないだろうか。

電子レンジだけでなく、多くの電化製品が、高齢者の日常生活を手助けし、豊かにさせる可能性をもっていると考える。

電化製品の中には、メディアとしての性格を持つものも多く、また、電化製品を使うには、機器そのものが、その顔面に表示している情報を正確に読み取り、取り扱い説明書に氾濫している情報を、必要に応じて取捨選択する能力が必要とされる。したがって、高齢者が電化製品を活用していくことは、現在の情報化社会の中で、よりよい生活を送るための重要なファクターになるのではないだろうか。

そのためにも、高齢者が使いやすい電化製品であるべきだし、わかりやすい取り扱い説明書

でなければならない。今回の調査で、具体的には、字のサイズや外来語の使用、ボタンの数やサイズなどに問題があることがわかったが、高齢者が「使いやすい電化製品」とは、「わかりやすい取り扱い説明書」とはどんな条件を満たしたものかを述べるには、まだまだ多くの調査すべき問題が残されており、これからの課題である。

注・参考文献

- 1) 宮崎和子、本間恵美、杉山喜美恵、杉原利治、日比昌子、東海女子短期大学紀要、第18号、41(1991)
- 2) 杉山喜美恵、宮崎和子、本間恵美、杉原利治、日比昌子、東海女子短期大学紀要、第19号、71(1992)
- 3) 例えば、炊飯器、洗濯機、掃除機など家事に使用するものについては女性の使用が多かった。
詳しくは、2) 参照のこと。
- 4) 経済企画庁調査局編『平成3年度版 家計消費の動向』1992年
平成3年のテレビの普及率は99.3%、冷蔵庫の普及率は98.9%である。
- 5) 単位は、上段：人数（人）、下段：割合（%）。表4、7、8も同様である。
- 6) n = 全体の数。
 n をもとに割合を算出した。表6、9、10も同様である。
- 7) 4)
平成元年、2年、3年の電子レンジの普及率は、それぞれ、64.3%、69.7%、75.6%である。